

なお、カナダからはMB州(13位→4位)、QC州(18位→6位)、NL州(3位→8位)、YT準州(8位→9位)が上位にランクされているが、BC州(16位→28位)、ON州(14位→23位)、AB州(10位→22位)は大きく順位を下げた。

QC州は政権交代による鉱業法改正が評価されて順位

を伸ばしたが、ON州はファーストネーション協議に関する鉱業法改正の不備を指摘され、また、BC州は土地の権利関係の曖昧さを指摘され、それぞれ順位を落としたとされている。(jpmec)

Special report : 2月のアルミマーケットレポートおよび3月の見通し②

橋本アルミ(株) 橋本健一郎



◆ 貿易指標

輸出

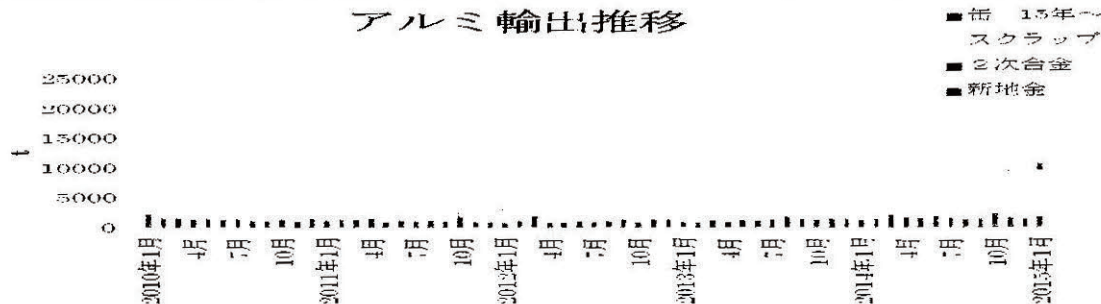
財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前年比+38.9%の242t、2次合金が+53.2%の1524t、スクラップが+7.0%の7085t アルミ缶が+7.0%の1129t。

※15年1月から スクラップが スクラップ アルミ缶に仕分けされたため前年比との比較ができず表記しております。

輸出	11月	12月	1月
新地金	322 t	175 t	242 t
前年比	+182.5%	+38.9%	+38.9%
二次合金	1354 t	1253 t	1524 t
前年比	+1%	-4.6%	+53.2%
スクラップ	1万607 t	1万0592 t	7805 t
前年比	-4.5%	-25.1%	比較できず
缶 (2015年～)			1129 t
前年比			比較できず

輸出推移

アルミ 輸出推移



出典 財務省貿易統計

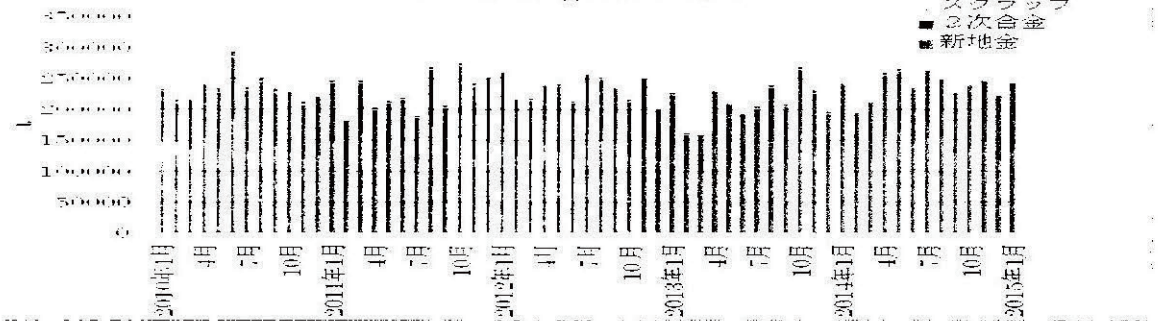
輸入

輸入は新地金が前年比-3.9%の13万6359t、二次合金が+10.8%の10万5089t、スクラップが+160.2%の1933t、合金スクラップは+75.5%の7184t。

輸入	11月	12月	1月
新地金	14万9442 t	12万170 t	13万6359 t
前年比	+5.8%	+17.3%	-3.9%
二次合金	9万6184 t	10万700 t	10万5089 t
前年比	+6.7%	+11.3%	+10.8%
スクラップ	1094 t	1389 t	1933 t
前年比	+24.3%	-74.3%	+160.2%
合金スクラップ	6231 t	6544 t	7184 t
前年比	+16%	-69.7%	+75.5%

輸入推移

アルミ 輸入推移

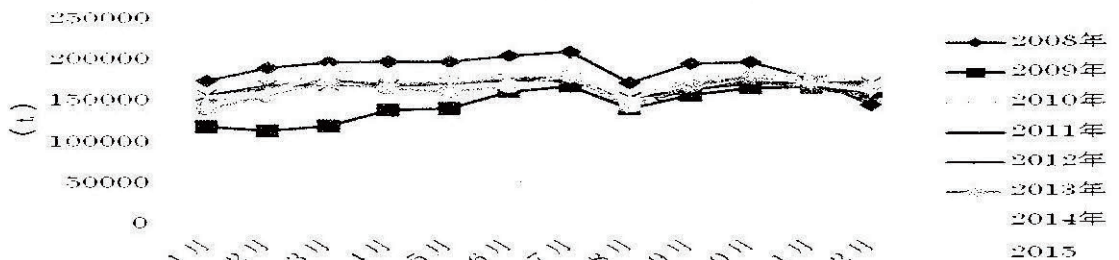


出典 財務省貿易統計

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-0.1%の15万3124t

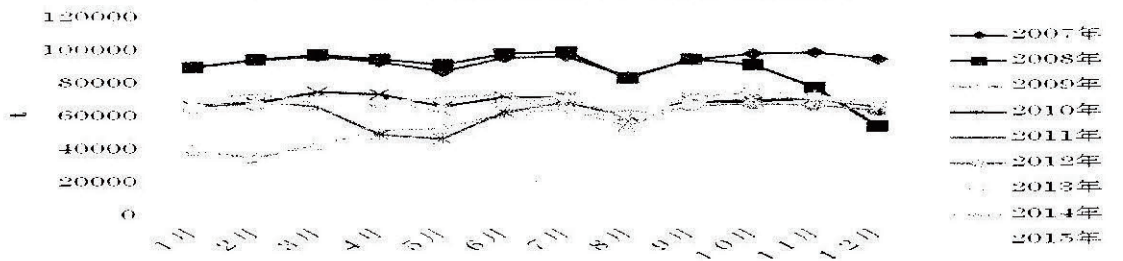
アルミ板類・押出生産合計推移



出典 日本アルミニウム協会

日本アルミニウム合金協会発表の アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績は前年比-26%の6万5289であった。

アルミ 2次合金等生産実績



出典 日本アルミニウム合金協会

■概況

【自動車生産】

1月の四輪車生産台数は777,656台で、前年同月の860,854台に比べて83,198台・9.7%の減少となり、7ヵ月連続で前年同月を下回った。

1月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。

乗用車—656,943台で81,033台・11.0%の減少となり、7ヵ月連続のマイナス。このうち普通車は366,725台で39,704台・9.8%の減少、小型四輪車は137,974台で21,372台・13.4%の減少、軽四輪車は152,244台で19,957台・11.6%の減少。

トラック—110,120台で206台・0.2%の減少となり、3ヵ月連続のマイナス。このうち普通車は49,621台で2,349台・5.0%の増加、小型四輪車は26,856台で435台・1.6%の減少、軽四輪車は33,643台で2,120台・5.9%の減少。

バス—10,593台で1,959台・15.6%の減少となり、2ヵ月ぶりにマイナス。このうち大型は825台で95台・13.0%の増加、小型は9,768台で2,054台・17.4%の減少。

1月の国内需要は401,366台で、前年同月比19.1%の減少であった。
(うち乗用車344,040台で前年同月比20.7%の減少、トラック56,590台で同8.6%の減少、バス736台で同26.7%の増加。)
輸出は前年同月比4.6%の増加。(実績)

【自動車販売】

2月の国内自動車販売台数(軽は除く)は 28万8348台 で前年比-14.2%。
6カ月連続マイナス。内 乗用車 -6.8% 貨物 +7.7% バス -7.9%

【住宅着工数】

平成27年1月の住宅着工戸数は67,713戸で、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の影響が大きかった前年同月比では、13.0%減となった。一方、そのような影響のない前々年同月と比べると、2.3%減となっている。また、季節調整済年率換算値では86.4万戸(前月比2.1%減)となった。

前年同月比では12か月連続の減少(前年同月比18.7%減、季節調整値の前月比では2.1%増)。

(貸家) 前年同月比では7か月連続の減少(前年同月比10.3%減、季節調整値の前月比では6.6%減)。

(分譲住宅) 前年同月比では3か月連続の減少(前年同月比11.2%減、季節調整値の前月比では0.7%増)。

(分譲マンション) 前年同月比では2か月連続の減少(前年同月比13.1%減)。

(分譲一戸建住宅) 前年同月比では9か月連続の減少(前年同月比9.7%減)。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比-2.6%の6万5298t。4カ月連続マイナス 出荷は-3.6%の6万6623t 11カ月連続マイナス。

内 出荷先 鋳物 -0.8% ダイカスト -4.1% 板 -1.7% 押出 -16.3% 鉄鋼 -0.5% 合金地金メーカー -15.4%

【アルミ圧延・押出品生産数】 -0.1% 15万3124t

板類

(1) 缶材 30,412t (▲24%) ボトル缶(主にコーヒ缶)は好調も、スチール缶の不調に伴い蓋材が減となった。また、前年同月の出荷量が消費増税前の駆け込み需要により高めであったことも影響した。

(2) 自動車 13,028t (▲3.9%) 国内乗用車生産台数は減少傾向にあるが(12月の生産台数:649千台、前年同月比:▲28%)、アルミパネル材を採用する主に高級車等の輸出増加により、板材としては2ヶ月連続でプラス。

(3) 輸出 18,376t (▲47.7%) 海外関連工場への素条輸出の増加や円安による輸出環境の好転等により、10ヶ月連続でプラス。
押出類

(1) 建設 37,184t (▲15.3%) 新設住宅着工戸数の減少を受け(12月の着工戸数:76,416戸、前年同月比:▲14.7%)、7ヶ月連続でマイナス。

(2) 自動車 10,703t (▲6.9%) 国内乗用車生産台数の減少傾向により、4ヶ月連続マイナス。輸出は新地金が前年比+38.9%の242t、2次合金が+53.2%の1524t、スクラップが??%の1万0592t。輸入は新地金が前年比+3.9%の13万6359t、2次合金は+10.8%の10万5089t、スクラップは+160.2%の1933t、合金スクラップは-75.5%の7184t

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き減少の-9.7%。また2月の国内販売台数も前年比-14.2%と減少幅も拡大。販売の減少が6カ月連続、続きメーカーもそれに伴い生産を調整している。輸出は+4.6%と増生産台数、販売台数共に減少幅が拡大してきている、輸出はそれなりに堅調だがこれ以上の輸出の大幅増は考えにくく全体としては3月もさえない結果になるのでは。

・新設住宅着工数は前年比-13%。季節調整済年率換算値で86.4万戸(前月比-2.1%)10カ月連続減少。ただ季節調整済換算では5カ月ぶりマイナスであり、3月も期待できないのでは。

・前月に続き、2次合金 自動車生産の減少 生産も小幅減少、出荷は相変わらず減少。今後も大幅な改善は期待できないが大幅な悪化もないとの見解。

・アルミ圧延・押出品生産数 ボトル缶(主にコーヒ缶)は好調も、スチール缶の不調に伴い蓋材が減となったことや素条輸出の増加や円安による輸出環境の好転等により、10ヶ月連続でプラスなど強弱材料はあるものの全体として減少傾向にあり。行楽シーズンまでは管需要が増えずこのままの状態が続くとの見解

・輸出 円安も伴って新地スクラップ共に増加。海外の自動車生産が好調なことや円安メリットを受けて大幅増

・輸入 スクラップと2次合金は慢性的な原料不足と1800ドル近辺まで下落したことから割安感が出て増加。新地金は内需の低迷と円安の割高感から減少。

上記を踏まえアルミスクラップ需給は引き続きタイトとの見解

【価格・為替予想】

今月は、中国全人代でのGDP目標数値と景気対策に左右される。

15年GDP目標数値に関しては 14年は 目標が13年と同じの+7.5%で実績は+7.4%。ただ15年に関しては、地方政府のGDP成長目標が昨年に比べ低下しており特に成長目標の引き下げが大きかった行政区を見ると山西省(2014年目標90%→2015年目標60%、以下同じ)、黒龍江省(85%→60%)、遼寧省(90%→60%) +7%まで引き下げられるのではないかと?

景気対策に関して 上記 GDPの低下を受けて、金融手段の他にインフラ系の大規模な景気対策が行われ可能性に期待？それらを踏まえた3月のアルミ価格は15年のGDP目標値が +75%と昨年のあまり変わらない数値で、インフラ系の大規模な景気対策が計画された場合、2月後半高値付近の 2000ドルを予測。いずれかの場合は1900ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合、安値の1800ドル。

為替は。米FRBの議会証言で利上げについて6月から9月にずれ込むとの認識から一時的にドル安円高に振れたものの、好調な米経済指標から3月中も元水準がつつくのではないかと？

今後、米経済指標の悪化が進んだ場合、上値は118円台。下値は特に新規材料難のばあい120円台と予測。(TTM)メーカースクラップ購入価格は+5から-5円と予測している

故銅市況

物作りは不振 銅建値は下降

6日の故銅市況も、市中に大きな動きは見られず。

6日入電のLME銅相場は、前日比45.0ドル安の5820.0ドルと下降した。

NY銅相場(3月限)は、前日比0.5セント安の267.20セントとなった。

為替相場は、TTSが0.24円安・ドル高の121.04円。

この日も荷動きに発展無し。「かんばしくない」「在庫にしておこうという考えです」(ある大手問屋)と言い市中には、昨日の建値変更による影響がさほど無いようだ。2月以降、相場は下がっている。

今年1月以降、物の流れが悪い。なぜなら、日本で物が作られていないせい、また為替も円高である。

中国やインドネシア等で物作りがされ、スクラップも出ない。

い。

70年代以降そうした状況は続いており、2年ほど前からメーカーが日本に戻りつつあるが、設備投資にも積極的ではない。

加工もしないため、物が少なく当然売れない。

直納問屋筋による平均的な値頃感として、ピカ線は65万5,000円、またその他の品種はそれぞれ、上銅新のうちタフピッチや無酸素銅などは62万円、並銅は57万5,000円、込銅(高品位=約97%)は53万円、セバは47万4,000円、コーベルは要り用筋で45万円あたりで、それ以外は44万5,000円、黄銅削削も同様に要り用筋で44万5,000円あたりで、それ以外は44万円どころの値頃となり、並青銅鋳物削削は48万円どころの様子。全体的に、前述よりも若干弱含み。

アルミ二次合金メーカー買値実勢値 (1トン程度・置場・現金・キロ当たり円)

関東地区(12月後半)

2S=182~186円、63S=182~186円、アルミホイール(1P)=180~185円、ビス付きサッシ=154~157円、エンジンコロ=154~158円、込合金(機械鋳物)=148~154円、缶プレス(ソフト)=147~152円

関西地区(12月後半)

2S=173~178円、63S=173~176円、52S=167~170円、印刷版=178~180円、アルミホイール(1P)=176~178円、ベースメタル=190~193円、機械鋳物=146~151円、ダライ粉=128~131円、ビス付きサッシ=145~151円、缶プレス=142~146円

LME銅相場反発

鉛、アルミ等は反発

5日入電のLME銅相場は、前日比36.0ドル安の5,820.0ドルと反落した。

NY銅相場は、前日比0.5セント安の267.2セントと反落。

NYカーブは5,835.0~5,836.0ドルで、LME先物比は24.50ドル安。

錫は僚品高で、続伸

LME錫相場は前日比70.0ドル高の1万7,995.0ドルと続伸。

鉛は僚品高で、続伸

LME鉛相場は前日比30.0ドル高の1787.0ドルと続伸。

亜鉛は僚品高でも、下降

LME亜鉛相場は前日比12.5ドル安と、下降。

アルミは僚品高でも、反落

LMEアルミ相場は前日比25.5ドル安の1805.5ドルと反落。

LMEアルミ合金は1805.0ドルと二日続けて横ばい、北米特殊アルミ合金も横ばいの1,960.0ドル。

ニッケルは僚品高で、反発

LMEニッケル相場は前日比235.0ドル高の1万4,110ドルと反発。

KeyDigits

外国為替NY=少し円安、120.10円。

LME銅=26ドル下げ 後場=15ドル上げ 銅在庫=+10,250トン

NY銅=-0.50セント。

LME銅建値計算=75万円 LME後場銅建値計算=75万円。

NY銅建値計算75万円。

LME銅=小幅な“行って来い”